

日本ポリアミン研究会 第21回研究発表会

【プログラム】



特 別 講 演

(1月25日)

1. 五十嵐 一衛(千葉大学大学院薬学研究院) 15:55~16:45

ポリアミン研究35年
—ポリアミンによるタンパク質合成調節を中心として—

2. 一瀬 白帝(山形大学・医学部血液・循環分子病態学研究室) 16:45~17:35

トランスグルタミナーゼ研究の動向とポリアミン研究との連携

(1月26日)

3. 増保 安彦(東京理科大学薬学部生命創薬学科) 10:40~11:30

抗体創薬の展望



一般演題



平成19年1月25日(木)

セッション1【ポリアミンと細胞機能 — Prokaryotes 】(13:05-14:30) 座長:
川喜田正夫 (工学院大)

1. 緑膿菌ポリアミン代謝系の多様性

船田剛玄、阿部直樹、神尾好是、○伊藤義文(東北大院・農)

2. 大腸菌の g-グルタミル中間体を經由するプトレッシン分解系

○栗原 新¹、織田晋平²、加藤健二²、金 玄国²、小柳 喬³、熊谷英彦³、鈴木秀之² (¹京大院・生命科学・分子応答、²京大院・生命科学・微生物、³石川県立大・生物資源工学研究所)

3. 大腸菌における新規ポリアミン排出タンパク質の同定

○東 恭平¹、石樽博之¹、出水梨沙¹、植村武史¹、柏木敬子²、西野邦彦³、山口明人³、五十嵐一衛¹ (¹千葉大院・薬 ²千葉科学大・薬、³阪大・産研)

4. 大腸菌の新規プトレスシンインポーターPuuP に関する研究

○壺井雄一、栗原 新、熊谷英彦、鈴木秀之(京大院・生命科学)

5. 高度好熱菌の SAM デカルボキシラーゼプロ酵素の自己切断機構

古橋めぐみ^{1,2}、森屋利幸^{1,3}、岩崎容子¹、三荷理一郎³、宮本哲也^{1,3}、大島 泰郎¹ (¹共和化工[株]環境微生物学研究所、²明治大・農、³東京薬科大・細胞機能)

セッション 2【ポリアミンの分析 I】(14:30-15:05) 座長:藤原邦雄(崇城大)

6. 金コロイド凝集法を測定原理とする尿中ジアセチルスペルミン測定試薬の開発

○柳谷真理¹、小坂美恵子¹、榎本昌泰¹、平松恭子²、高橋慶一³、川喜田正夫⁴ (¹アルフレッサファーマ[株]、²東京都医学研究機構・臨床研・がん治療 PT、³東京都立駒込病院外科、⁴工学院大・工・応用化)

7. 質量分析によるポリアミン同時定量法の特徴と信頼性

○鮫島啓二郎、大谷政博、村上安子、岡 孝己、津元裕樹、幸田光復(武蔵野大・薬)

セッション 3【ポリアミンの分析 II】(15:05-15:40) 座長:鮫島啓二郎(武蔵野大)

8. 大腸がん患者の経過観察における尿中ジアセチルスペルミン測定の意義

○平松恭子¹、高橋慶一²、川口真視³、相羽庸子^{1,3}、坂口政吉³、玉森佳子⁴、山口達郎²、柳谷真理⁵、小坂美恵子⁵、森 武生²、川喜田正夫³(¹東京都医学研究機構・臨床研・がん治療PT、²東京都立駒込病院外科、³工学院大・工・応用化、⁴駒込病院・臨床検査科、⁵アルフレッサファーマ[株])

9. 核内ポリアミンの光顕及び電顕免疫組織化学的局在検索

○進 正志、藤原邦雄(崇城大・生物生命)

平成 19 年 1 月 26 日(金)

セッション 4【ポリアミンと細胞機能 — Eukaryotes I 】(9:00-10:25) 座長:
柏木敬子(千葉科学大)

10. 膵臓分化におけるアンチザイムの重要性

○鈴木順一郎、村上安子、大谷政博、岡 孝巳(武蔵野大・薬)

11. アンチザイム 1 ノックアウトマウスにおける高濃度ポリアミンによる造血障害

○大城戸真喜子、松藤千弥(東京慈恵会医科・生化学講座第 2)

12. 血管平滑筋細胞の分化とアンチザイムの関係

○石井伊都子¹、上田 窓¹、五十嵐一衛¹、北田光一²(¹千葉大院・薬、²千葉大医学部附属病院)

13. 傍腫瘍性小脳変性疾患関連タンパク質 CDR2 と AZ2 の相互作用の解析

○村井法之、松藤千弥(東京慈恵会医科・生化学講座第 2)

14. 細胞内ポリアミン量の制御と脂肪前駆細胞における分化

○石井育美¹、池口文彦¹、手塚淑人¹、五十嵐一衛²、和田政裕¹、真野 博¹、白幡 晶¹(¹城西大・薬、²千葉大院・薬)

セッション 5【ポリアミンと細胞機能- Eukaryotes II 】(13:00-14:05) 座長:
白幡 晶(城西大)

15. 非生物的/生物的ストレスに対する植物生体防御におけるスペルミンの役割の検証

○山口公志¹、高橋芳弘¹、ベルベリッヒ・トーマス¹、今井章裕²、高橋卓²、マイケル・アンソニー³、草野友延¹(¹東北大・生命科学、²岡山大・理、³英国食品研究所)

16. シロイヌナズナの茎伸長におけるスペルミンの作用機構の遺伝学的解析

今井章裕, 小村水脈, ○高橋 卓(岡山大院・自然科学)

17. ODC 過剰発現は ERK、p38 のリン酸化、MMP-2 発現を誘導する
根本崇宏、○久保田俊一郎(東大院・総合文化・生命環境科学)

18. 異なる温度でのアフリカツメガエル胚の発生と SAMDC で誘起される MBT 直後のアポトーシス

○塩川光一郎¹、三井康平¹、麻生 舞¹、近藤剛士¹、内山寛章¹、梶谷正行¹、垣内力²、関水久²、五十嵐一衛³(¹帝京大・理工・バイオ、²東大院・薬、³千葉大院・薬)

セッション 6【ポリアミンと細胞機能 -Cell-free system】(14:05-14:55) 座長:
早田邦康(自治医科大学)

19. スペルミジンを標的とした機能性分子の研究

○椿 一典、谷間大輔、川端猛夫 (京都大学 化学研究所)

20. HIV-1 ゲノム RNA 二量体化開始部位の構造に対するポリアミンの効果
○千勝大輔¹、岡本愛子¹、猪股恵美礼¹、照井祐介²、大島泰郎³、河合剛太¹ (¹千葉工大・工、²千葉科学大・薬学、³共和化工[株]・環境微生物研)

21. Comparative studies of anthraquinone - andanthracene - tetraamines as blockers of N-Methyl-D-aspartate receptors

○Lihua Jin¹, Hiromi sugiyama¹, Miki Takigawa¹, Daisuke Katagiri¹, Hideyuki Tomitori², Kazuhiro Nishimura¹, Navneet Kaur³, Otto Phanstiel IV³,

Mariko Kitajima¹, Hiromitsu Takayama¹, Tadashi Okawara⁴, Keith Willams⁵, Keiko Kashiwagi², and Kazuei Igarashi¹ (1 Graduate School of Pharmaceutical Sciences, Chiba University; ² Faculty of Pharmaceutical Sciences, Chiba Institute of Science; ³ Department of Chemistry, University of Central Florida; ⁴ Faculty of Medical Pharmaceutical Sciences, Kumamoto University; ⁵ Department of Physiology and Pharmacology, State University of New York Downstate Medical Center)

セッション 7【ポリアミンと疾患 I】(15:10-15:45) 座長:大澤仲昭(藍野加齢研究所)

22. 抗炎症剤・抗アレルギー剤としてのポリアミンの可能性
○早田邦康(自治医大・大宮医療センター)

23. 成人型アトピー性皮膚炎患者の腸内ポリアミン濃度および腸内細菌叢
○松本光晴^{1,2}、柿添建二³、辨野義己²(¹協同乳業[株]研究所・技術開発、²理化学研究所バイオリソースセンター、³柿添皮膚科外科)

セッション 8【ポリアミンと疾患 II】(15:45-16:35) 座長:久保田俊一郎(東大)

24. 担癌患者における細胞性免疫機能抑制とポリアミンの関係
○中村 豪、早田邦康、加納良彦、川上正舒、小西文雄(自治医大・大宮医療センター)

25. ストレプトゾトシン誘発 I 型糖尿病モデルラットにおける食事由来スペルミンの与える影響
○高尾浩一、杉田義昭、植原淳之介、早淵菜保、白幡 晶(城西大・薬)

26. 新規脳梗塞マーカーとしての血漿中アクロレインとポリアミンオキシダーゼ
○吉田 円^{1,2}、富取秀行³、上田志朗¹、堀口健太郎⁵、佐伯直勝⁵、加瀬 廣²、西村和洋¹、石井伊都子¹、柏木敬子³、五十嵐一衛¹(¹千葉大院・薬、²[株]フェューエンス、³千葉科学大・薬、⁴千葉大院・医)